

選んだ記事について発表する児童



枕崎小学校(枕崎市)

初のはがき新聞コン

実践校として2年目。5、6年生は記事を選んで月曜の朝に発表する「てきぱきプレゼン」を2019年度から継続し、4年生も授業に取り入れていた。児童は、社会に関心を持つて話ができるようになってきた。

夏休み中に新聞を読んだ感想や意見を「はがき新聞」にまとめ、優秀作品を表彰する校内コンクールを初めて実施した。例年は親子でB4サイズの「夏休みの思い出新聞」を作っていたが、話し。

（藤本祐希）

新型コロナウイルスの影響で夏休みが短縮されたため、新たに企画した。自由参加にもかかわらず、全児童の約6割が参加。優秀作品を校内に掲示し、保護者や地域住民に見てもらったことで、意欲の高まりにつながった。平川貴之校長は「B3は「サイズが小さいので取り組みやすい。記事を短くする必要があるため、文章を練って書く」とにもつながっている」と

回答用紙に書き込む生徒



れいめい高校(薩摩川内市)

記事題材考え文章化

実践校1年目。キャリアアップコースの2年生22人が、新聞を使って語彙力や文章力、自分の考えを伝える能力向上を図っている。

記事を題材に意見をまとめる課題を、登校日は毎日こなす。進学時の面接や就職試験を意識し、社会情勢や政治経済の記事を中心に扱う。全員が1000字ほどの用紙に目いっぱい書き込む。持ち歩くファイルは、スクラップと回答用紙で分厚い。

2年の星原彩希さんは、新聞を読む習慣はなかったが「最近では、見出しを読んだ気になる記事を読むようになった。作文や志望書を書くときも、以前より使える言葉が多くなったと実感する」という。

担任の小田仁美教諭(38)は「会話中に『やばい』を多用していた生徒も、話す言葉の種類が増えてきた。国語の点数も底上げされている」と話した。

（荒川卓也）